

高等学校における道徳教育

主題名 「いじめ」について考える

資料名 「いじめってなんだろう？」(『明日への扉』千葉県教育委員会)
新聞記事(朝日新聞 2012/07/22, 2017/05/29 東京新聞 2013/07/30)

学校名 千葉県立国分高等学校 指導者 第1学年担任

1 学習指導案

高等学校 1年1, 2, 3, 4, 6, 8組 道徳学習指導案

平成29年9月28日(木) 6校時

(1) 主題名

「いじめ」について考える

(2) ねらい

いじめの実相、背景、影響等について洞察し、その問題の深刻さについて考えるとともに、いじめ問題を通して、人権や自他を尊重する態度を養う。また、互いの意見を交わしながら問題意識の共有を喚起し、いじめの解決について考える。

(3) 主題設定の理由

生徒の多くは直接・間接を問わず、小中学校時代に何らかの「いじめ」体験をしている。一方で、「いじめ」が深刻な問題を孕んでいるにもかかわらず、それを正面から議論することには困難さがともなう。「いじめ」には、受けた心の傷の深さや複雑に絡み合った人間関係が潜んでいるからである。

本時は、資料を読み取りながら「いじめ」の深刻さや背景、その後の影響などについてあらためて考える機会としたい。また、「いじめ」について意見を交わし、問題意識を共有するとともに、人権や自他を尊重し、多様な他者と共生できる集団・社会について考える態度を養いたい。

(4) 展開

	学習活動と主な発問	予想される反応	教師の支援
導入 (7)	1 授業の意図を伝える。 ・「各自資料を読んで考えを書く」「班に分かれての自由討論をしてプリントに自分の考えを書く」という手順について、説明する。		・重いテーマであることを斟酌しながら、生徒に互いの配慮をよびかける。
展開1 (10～15)	2 生徒は資料A, Bを読む。 ・<傍観者は同罪か？> 3 生徒は資料Cを読んだ後、自分の考えを書く。	・傍観者がいるからいじめがなくなる。	・集中して取り組むよう見守る。
展開2 (15～20)	・<いじめは法規制でなくせるか>	・実際にいじめを止めるのは無理だ。 ・法をつくれればいじめの歯止めになる。	・個別のいじめ体験については語る必要がない旨を伝え、肩の力を抜いて自由に話し合うよ

展開3 (10)	4 資料Dを配布し、討論の内容を確認する。	・法律ができれば「チクッた」と責められなくなる。	う促す。
	5 班に分かれ、班長を決める。	・法律でいじめる人の心は変わらない。	・必要に応じて生徒にアドバイスをする。
終末 (3)	6 各自が自分の意見を述べ、班員の意見をメモする。	・いつも監視されているようで、友人関係がギスギスする。	
	7 全員が意見を述べた後、自由に意見交換。互いの意見に対する感想や疑問点を出しつつ議論を深める。	・いろいろな意見を聞いてとても参考になった。やっぱりいじめはいけない。	
	8 記入プリントに自分の考えを書く。	・いじめはダメだ。しかし、自分が犠牲になってまで止められるか不安だ。	
	9 記入プリントを回収、担当の先生からコメント。		・今日考えたこと、話し合ったことを今後さまざまな場面でいかしていくようよびかける。

(5) 他の教育活動との関連

本校は、「自主・自律」を校訓に、生徒会行事、合唱祭、部活動、海外修学旅行等において、生徒が話し合いながらともに学校生活を営んでいく態度や自発的な取り組みを尊重してきた。道徳でも、このような話し合いの機会をもつことで問題認識を深め、自ら考え、異なる意見や考え方を尊重する態度を養っていききたい。

2 事後検討会

(1) 授業記録

T 「いじめ」に関する資料A、Bを各自読んでみよう。

T 今日は「いじめ」について考え、お互いに意見交換をしよう。自分の辛い体験を話す必要はないので、はじめに断っておきます。では、次に資料Cを読んでプリントに自分の考えを書いてみよう。

T さて、「いじめ」について、資料を読んだり感想を書いてみて、いろいろと思うところがあったと思います。では、次に班に分かれて自由に意見交換をしてみよう。テーマは「いじめは法規制でなくせるか」です。

S さまざまな意見交換。班長は出てきた意見をクラス全体に発表。

(賛成)

- ・法をつくれれば、「いじめ」の歯止めになる。
- ・法律ができれば、「チクッた」と責められなくなる。
- ・「いじめ」をなくす強制力があつた方がいい。

(反対)

- ・いつも監視されているみたいで、友人との信頼関係がなくなる。

- ・法律ができてもしじめる人の心は変わらないから、効果がないのではないか。
 - ・「いじめ」をなくす環境をつくって、みんなで努力するのが先だ。
 - ・あだなを禁じるのはやり過ぎだ。
- (その他)
- ・何をやっても「いじめ」はなくなる。

T 「いじめ」について、自分自身を振り返りながら、これからも考えていこう。では、最後にプリントに自分の考えを書いてください。

(2) 授業の感想

(生徒の感想)

<傍観者は同罪か？>について

- ・いじめに対してしっかりと「やめなよ」と声をかけてあげられる人は、本当に強い人だと思う。でも、そんな強い人は、きっとほとんどいないと思う。もし、1人で止めに行くのではなく、よくないと思っている人全員と一緒に勇気を出せたら、どう変わるだろうか。1人1人が、「誰かがやってくれる」ではなく、「自分から動く」ことが意識できたら、いじめはなくなるのではないか？
- ・私は、いじめを実際に見たことがないので、あまり、リアルな気持ちは想像できないけれど、私も、人に「いじめはやめなよ」と言うことはできないと思う。自分が口を出して更に悪化したりすることもあると思うので、陰で、いじめられている子に声をかけるなどしくのが良いと思う。
- ・「いじめ」を決めるのは被害者で、「いじめられている」と被害者が感じて助けを求めてきたら助ければいい。ただのじゃれあいがいじめに見えたり、いじめがじゃれ合いに見えたり、傍観者にはわからない。それに、いじめなんて人前でするものじゃないから、加害者と被害者以外に、ほぼいじめなんて知る人はいない。

<あなたは某校の教師で、いじめた子を停学にできる権限があるとします。さて、あなたならいじめた子を停学にしますか？>

- ・停学にしない。停学にしても何も変わらないし、停学明けにもしかしたらいじめがエスカレートしてしまうかもしれないから。
- ・もし停学にしたからといっていじめが終わらなくても、いじめをすることがどれだけダメなことかがわかるし、反省して心を入れ替える機会にもなるなら、1度停学にすることは必要だと思いました。

<いじめを法で規制する国があります。米国は多くの州で反いじめ法をつくり、あだなはいじめをつくりやすいとして、あだなで呼ぶことを禁じる州があります。韓国はいじめを知った場合、教師に申告することを法で義務づけました。さて、あなたはこのような法に賛成か反対か？>

- ・「法」とかに頼っていじめをなくすんじゃなくて、自らの意志でしていいこと、していけないことの区別をつけるべきだと思う。
- ・反対。友達やクラスが常にギスギスして、お互いがお互いの悪いところを見つけ合ってしまうから。
- ・いじめは処分で決めたり、法で定めたりするものではないと思います。これは人と人の関係の問題であって、国や地方自治体が動くものではない気がします。みんなでどうするかを話し合い、その後、どうやって改善させていくのかが一番大事だと思います。

<その他>

- ・いじめはダメ、止めないといけない。それは分かっているけど、いざ同じ立場になったら、自分は止められるのか。自分を犠牲にしてまで助けられるのか、それが不安。仲が良い悪いで差

別してしまいそう。いじめはないのが1番だとあらためて思った。班の話し合いでも、同じことを言う人が多かった。勇気を出すことは大変なんだなと思った。

(参観者の感想)

- ・「いじめ」を正面から取り上げるのは非常に難しい。しかし、生徒たちはよく話し合いうまく取り組めていたと思う。
- ・今後、主体的に考え、議論する道徳へと質的転換が求められるのではないか。主体的に対話する、あるいはアクティブ・ラーニングによる深い学びを通して、最後は、自分自身を振り返って考えることが大切である。
- ・NHKの「道徳」の教材は哲学的なテーマを扱っている。高校の「道徳」も哲学的な内容を取り上げるのがよいと思う。
- ・意見を出せる雰囲気があった。言語活動が十分行われていた。
- ・生徒たちが考え、議論した後、どこに着地するか、そこで身に付けさせたい道徳性は何かについて、継続して考えていきたい。
- ・三輪車理論というのがあるが、知徳体のうち徳は前輪であってほしい。

3 本事例の活用に関する留意点

(1) 事前準備について

小学校、中学校時代に深刻な「いじめ」体験があるため、「いじめ」をテーマにした授業にたえられない生徒がいることも考えられる。そのための関係職員の話し合いと情報共有が肝要である。学年会議等で事前にその件について確認をし、たえられそうにない生徒がいるクラスについては、このテーマを避け、別のテーマで実施すべきであろう。本校1学年では、8クラス中2クラスは別のテーマで実施した。

(2) 授業展開について

「いじめ」体験で心に傷をもつ生徒は少なくない。それゆえに、個人的な体験をあえて話すあるいは聞く場面は避けたい。一方で、たとえ一般論であったとしても、いじめについて自分の頭で考え、自分の言葉で表現し、互いに交流する機会を大切にしたい。教員は強い干渉や結論を述べることは避け、生徒の自発的で良心的な活動を促したい。